

14 更年期障害（男性）に対する 柴胡桂枝乾姜湯の使用経験

長野赤十字病院 泌尿器科

天野 俊康、松本 侑樹、下島 雄治、今尾 哲也

【はじめに】

当科において加齢男性性腺機能低下（LOH）症候群に対して漢方薬治療を積極的に行ってきた。特に加味逍遥散を頻用してきており、その有効性、安全性につき報告してきた。しかしながら、2018年5月、長野県社会保険診療報酬請求書審査委員会から、加味逍遥散エキス顆粒の効能・効果に「婦人」とされている製剤があり、適応に留意を促す連絡文書が届いた。そこで加味逍遥散に代わりうる漢方製剤として柴胡桂枝乾姜湯を投与したので、その使用経験に関して報告する。

【対象および方法】

2018年6月以降、LOH症候群に対して柴胡桂枝乾姜湯を投与した22名を対象とし、投与4週後に自覚症状による有効性、副作用につき検討した。

【結果】

22名の平均年齢は 52.9 ± 8.5 歳であり、Aging Male Symptom's (AMS) スコアは 51.5 ± 11.2 で14名（64%）が50点以上の重度であった。実虚スコアは 46.1 ± 8.3 で虚証10名、中間証10名、実証2名であった。LOH症候群に対して、前治療なく柴胡桂枝乾姜湯を投与したものの6名、加味逍遥散から変更したものの15名、エナルモン注射による多血症のため柴胡桂枝乾姜湯に変更したものの1名であった。有効性に関しては、前治療なし群では、1名が著効し治癒、4名は症状が改善～軽快し有効、1名は4週後では変化なかったが8週後には症状が軽快した。加味逍遥散からの変更群では、7名が食欲・排尿改善、全体的な体調改善などを認め柴胡桂枝乾姜湯の方がよいと自覚し、8名は柴胡桂枝乾姜湯に変更しても加味逍遥散と変化なく、悪化したものはなかった。さらにエナルモン注射から変更した1名は自覚症状に変化なく、多血症も改善した。

副作用としては、1名に軽度腹部膨満感を認めたが、内服継続にて自然に改善した。

【考察】

LOH症候群の治療原則は男性ホルモンの補充療法であるが、血中テストステロン値が判明する前からの治療開始や、男性ホルモン補充療法が禁忌の場合などに対して女性更年期障害の3大漢方である当帰芍薬散、加味逍遥散、桂枝茯苓丸を中心とした漢方薬治療を行い、その有効性・安全性につき報告してきた（Aging Male 13, 166, 2010）。加味逍遥散は、比較的虚弱で精神神経症のある中間証を中心に10年来最も頻用し、極めて有用な治療薬であるが、今回の突然の通知により突然使用の困難状況に陥った。そこで加味逍遥散に代用でき男性にも投与可能な漢方薬を検索したところ、柴胡桂枝乾姜湯の効能または効果は、婦人に限定されておらず、今回の使用経験の結果から、有効率が高く、加味逍遥散からの変更でも効果が低下することもなく、安全性にも問題はなかった。今後、地域によっては、LOH症候群に対して加味逍遥散の使用が困難になる場合も想定されるが、その際には柴胡桂枝乾姜湯に変更することは有用であると考えられた。